

な文辭に對比して當代陵制研究の基礎的記載をなせるものあると共に他方紀行文に近き簡單なる報告あり、又綜括的詳論的なるあり。されど何れも其の専門の立場より研究の結果を記述せるに於いて一致し、添ふるに寫眞實測圖等各種類に亘る數百の版を以てざるは遺蹟の性質を明にする此の種の報告書として最も見るべく獨り牛島の史蹟に關する知識確實となすのみならず、古代東亞史の研究上に幾多の好資料を與ふ。文誤植の甚だ多く、本文と圖版の對照の如き又相合せざるもの少なからざるは惜むべきなり。因に此の書もと非賣品なるも、硬部實費を以て希望者に分與せらるべしと聞く。(非賣品、朝鮮總督府發行)〔梅原〕

● 雜 誌

● 經子に見えたる宋人

文學博士 桑原鵬藏
(藝文第十年第五號所載)

先秦の書籍に屢見ゆる宋人は一種の氣質を具へて、何れも癡愚頑冥の人物を代表し、其の所行は當時の世人の嗤笑輕侮の種とな

りしもの多し。孟子公孫丑篇に見ゆる苗の成育を速ならめしむとして之を枯死せしめし語、列子天瑞篇に見ゆる姦盜をなせし語、同黃帝篇に見ゆる狙公朝三暮四の語、同楊朱篇に見ゆる園君に猷暄の愚を致せる語、又莊子逍遙遊篇に見ゆる章甫買占の語、左傳公羊傳に見ゆる宋の襄公の仁の語等は何れも其癡愚を證明する史料なるが、何故かく癡愚頑冥なりしかについては、周が殷に代りて天下を一統してより支那古代の習慣として新制度を天下に施行せしも、唯殷と特別の關係ある商土殷民は其の舊慣政俗に循ふを許ししかば、殷の後を承けたる宋國は偏に其の舊禮を用ひ、殷に對する執着心と周に對する敵愾心に驅られて必要以上に舊慣故習を固守せし結果、春秋戰國の交に及びても特殊の衣冠國風を墨守し、従つて宋人は世間の注意を惹き頑冥の人物として代表せらるゝに至りしものなりと思はる。〔那波〕